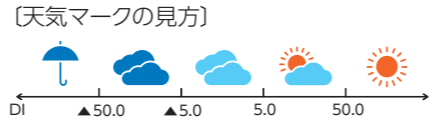


業種別天気図 (数値は業況判断DI)



業種	10~12月期 (前回)	1~3月期 (今回)	4~6月期 (予想)	業種	10~12月期 (前回)	1~3月期 (今回)	4~6月期 (予想)
全産業	9.1	△ 0.2	△ 4.5	印刷	△ 54.5	△ 25.0	△ 16.6
製造業	6.4	△ 4.0	△ 6.3	食料品	△ 19.2	△ 31.9	△ 13.7
非製造業	11.3	2.5	△ 3.1	卸売業	4.5	△ 13.0	△ 8.7
自動車部品	6.5	1.9	△ 10.6	小売業	△ 14.1	△ 13.5	△ 9.3
機械器具部品	19.8	3.2	1.7	飲食業	△ 39.1	△ 29.2	△ 33.3
金属製品	30.6	20.6	9.4	建設業	28.6	17.2	2.0
窯業・土石	13.3	△ 31.2	△ 42.9	不動産業	13.1	22.9	20.0
木材・木製品	△ 66.7	△ 50.0	△ 33.3	運輸業	20.6	0.0	3.2
繊維製品	△ 8.0	△ 23.8	△ 14.3	サービス業	18.1	10.8	△ 3.3

景況感悪化 3期ぶり
製造業は大幅悪化、先行きに警戒感

中小企業景況動向調査(1~3月期)

当金庫が行った2019年1~3月期の「中小企業景況動向調査」の結果がまとまった。

調査期間は2月21日から3月7日。調査対象はお取引先企業1013社。回答数は908社。(回答率89・6パーセント)

業況

海外経済の減速で景況感悪化

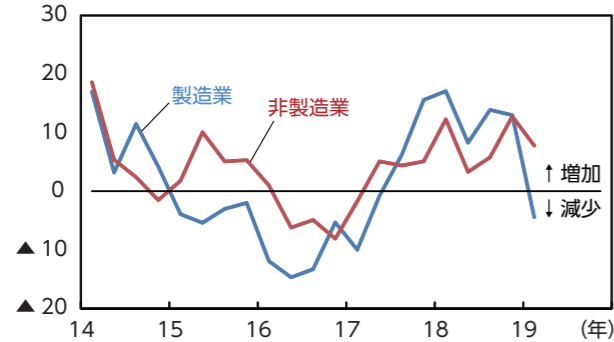
DIは7期ぶりにマイナスへ
企業の景況感を表す業況判断DI(業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いた値)は、全産業でマイナス0・2となり、10~12月期から9・3ポイント悪化した。DIのマイナスは、2017年4~6月期以来、7四半期ぶり。

製造業は10・4ポイント悪化してマイナス4・0。海外経済の減速の影響を受けた企業が多いとみられる。前年同期比の売上額や収益が減少に転じることも増えている。
非製造業も8・8ポイント悪化して2・5。プラスは維持したものの、卸売業、建設業、運輸業などの大幅悪化が響いた。

製造業

自動車部品のDIは1・9。前回に比べ4・6ポイント悪化した。中国経済の減速による輸出減少の影響が大きい。人材確保が難しくなると「労務費が上昇、コスト割れの状態になっている」との声もあがった。
機械器具部品は3・2となり、大幅な悪化がみられた。悪化は5四半期連続。貿易摩擦の影響

前年同期比売上額 (増加-減少)



非製造業はマイナス13・0。10

で、中国向け受注に加え、北米向け受注にも陰りが見られるようになって、前年同期期に対して減収減益となった企業も目についた。このほか、金属製品、窯業・土石、繊維製品、食料品が悪化。木材・木製品と印刷は、水面下ながら改善した。

12月期に比べ17・5ポイント低下。配送費などの物流コストの上昇と、人手不足による配送作業の遅れを訴える企業が目立つようになっている。とりわけ悪化の幅が大きかったのは、農畜産物・水産物の卸。「豚コレラの発生で販売がストップした」ところもあった模様。
小売業はマイナス13・5。前期に比べほぼ横ばい。マイナス領域

経営上の問題点

- 1位 人手不足 (47.4%)
- 2位 売上の停滞・減少 (35.1%)
- 3位 人件費の増加 (23.7%)
- 4位 同業者間の競争激化 (21.6%)
- 5位 利幅の縮小 (19.3%)

重点経営施策

- 1位 人材の確保 (47.7%)
- 2位 販路の拡大 (41.0%)
- 3位 経費の節減 (38.8%)
- 4位 情報力の強化 (19.0%)
- 5位 教育訓練の強化 (16.7%)

業況判断DI(「良い」-「悪い」)



でのDI推移が長引いており、回復が遅れている。

飲食業はマイナス29・2。9・9ポイント改善したが、依然としてマイナス領域にあって、景況は冴えない。人手不足も深刻で、人件費の増加を問題にすると同時に教育訓練の強化を課題にあげるところが増えている。

前回28・6だった建設業は17・2となり、3四半期ぶりに悪化した。公共工事関連企業や設備工事関連企業には底堅さがみられたが、住宅建設関連企業のマインド低下が響いた。「今回は消費増税の駆け込み需要をあまり感じない」との声も出ている。

不動産業は22・9。前回(13・1)に比べ9・8ポイント改善した。不動産需要は堅調で、増収増益の基調は続いている。

運輸業は0・0。10～12月期(20・6)に対し、大幅に悪化した。悪化は3四半期ぶり。中国の景気減速の影響で、一般的に荷動きが鈍化している。燃料価格の高騰は落ち着き、運賃の値上げは徐々に浸透しつつある。

サービス業は10・8。前回(18・1)に比べ7・3ポイント悪化。ソフトウェア開発業やメンテナンス業など、法人向けのサービスは堅調だが、個人向けサービスは低調な業況を余儀なくされている。

見通し

先行きに警戒感

貿易摩擦の動向などを懸念

4～6月期の見通しDIは、全産業でマイナス4・5となり、先行きを警戒する見方が多くなっている。製造業はマイナス6・3、非製造業もマイナス3・1。米中貿易摩擦の動向やイギリスのEU離脱問題の行方を懸念し、自動車部品製造業や建設業、サービス業などで慎重に構える企業が少なくない。

お客様の声

- 中国の経済成長の鈍化で、その影響が徐々に始めている。 **[自動車部品]**
- 自動車産業の設備投資が好調で受注量が増えたが、材料仕入価格の高騰で利幅が縮小した。人手不足で外注先の確保も難しい。 **[精密機械製造]**
- 景気は悪くないが、危うさを感じる。いろいろな情報に耳を傾けていく。 **[ステンレス加工]**
- 短期間で退職する従業員が多い。 **[金属熱処理加工]**
- 物流コストの急激な上昇が収益を圧迫している。 **[金属材料卸]**
- 消費増税の駆け込み需要がある。 **[生コン・建材卸]**
- 自社ではできない仕事を地域内の異業種企業に依頼し、両社に利益が上がるような仕組みを考えて成功している。 **[自動車部品小売業]**
- 人材の囲い込みが激しく、他社や親会社からの引き抜きが起きている状況。 **[電気工事業]**
- 現場に60歳以上が目立つ。 **[建設業]**
- メンテナンス付きリースを始めたところ、収益が安定し、お客様の固定化にもつながった。 **[自動車整備]**
- 相変わらずの人手不足で、外国人技術者の採用を検討している。外国人の就労について調べている。 **[大型自動車修理]**
- 客単価が低下している。 **[パチンコホール]**